

高いデザイン能力を有する高度専門技術者の育成

理工学研究科では、自然の法則と数理の構造を理解し、その知見を応用して人類の継続的な発展と幸福に貢献する、人間性豊かな研究者と高度専門職業人の養成を目標としています。各専攻に設置された科目を通して専門的な学力の修得を図るとともに、全専攻に共通する広域的なテーマや学際領域に関わる授業科目をバランスよく配置し、理工学の専門的な知識のみならず、科学技術を社会との関わりの中で捉える広い視野と、境界領域や新しい分野をも開拓しうる柔軟性を育成します。

また、連携大学院制度の導入、他大学との単位互換協定への参画など、実社会や他大学院生との交流も積極的に行っています。国内外の学会参加の費用補助やRA・TA、助手への採用の制度、その他奨学金制度など経済的支援も整っており、積極的に研究を行おうと考える大学院生にとって、充実した研究生生活を送ることができる環境が用意されています。意欲ある多くの皆さんが理工学研究科に入学されることを期待しています。

※RA・TA制度、助手制度については [P.010](#) を参照してください。

建築・都市学専攻の人材育成その他教育研究上の目的

国際建築都市デザイン系

国際建築都市デザイン系では、国際的環境で通用する建築・都市デザインのプロフェッショナル、特に国際的な環境において建築・都市の創造・再生を実践的に担えるプランナーやデザイナーを育成する。

博士前期課程では、国際的な環境における建築デザイン・都市デザインの実践に必要な知識、語学力及び技能を有する研究者又は高度専門職業人を育成する。博士後期課程では、博士前期課程で培った専門性を一層高め、国際社会での先導的役割を担う研究者・教育者・実務家を育成する。

総合芸術系

総合芸術系では、芸術文化の歴史と現在に対する洞察と、自然と社会の環境への適切な配慮を、創造的な研究へとつなげていくことのできる人材を育成する。

博士前期課程では、特定の芸術分野における深い知識と、分野を横断する広い知識を併せ持つ研究者・教育者・作家を育成する。博士後期課程では、博士前期課程で培った研究の専門性を一層高め、各芸術分野においてより先導的役割を担う人材を育成する。

建築・都市デザイン教育で世界をつなぐ 建築・都市学専攻 3つの特色

日本から世界へ・世界から日本へ [グローバルに活躍できる人材]の育成

- サステイナブルな低炭素社会の実現に向けた学際的視野の獲得
- 世界的都市問題と地域固有の問題に対応した多角的な視野の育成
- マーケットのグローバル化に対応した東アジア・環太平洋地域との連携

建築・都市デザイン分野における 日本で初めての完全英語教育と 学際的教育的の実施

- ワークショップ・ディスカッション重視の欧米スタジオ形式のインタラクティブ指導の実践
- 欧米・アジアの建築・都市デザイン分野の大学との連携による多様な学習スタイルの提供
- JABEE および UNESCO/UIA 認定プログラムによる国際的通用性のある建築教育プログラムの提供

知的プラットフォームの構築による 国内外での多様な 就業・実務機会の提供

- 海外建築・都市デザイン事務所との連携による就業支援プログラムの提供
- 海外大学との連携による留学機会の提供
- グローバルなネットワークの構築とコミュニケーション能力のスキルアップによる多様な就業・実務機会の創出

プログラム(博士前期課程2年間)

国際的視野に立ち、総合的かつ実践的に課題に対処できるプロフェッショナルの育成を目指し、ワークショップ・ディスカッション重視の指導による、国際的通用性のある高度専門教育を行います。

建築都市 デザイン スタジオA 講義 【第1 Semester】	建築都市 デザイン スタジオB ワークショップ インターンシップ 講義 【第2 Semester】	建築都市 デザイン スタジオC ワークショップ インターンシップ 講義 【第3 Semester】	修士設計 【第4 Semester】
---	--	--	----------------------------------

UIA 基準による 国際建築家資格取得カリキュラム

学位 | 工学修士号、建築学修士号、
学術修士号

UIA 建築教育憲章に準拠した教育プログラムとして日本での認定機関である JABEE より認定を得ることにより、国際的通用性の担保された建築教育を提供します。

入学受入方針 (Admission Policy)、学位授与方針 (Diploma Policy)、教育課程編成・実施方針 (Curriculum Policy)、理工学研究科の人材育成その他教育研究上の目的については、[P.102-105](#) を参照してください。



理工学研究科 Web ページ

明治大学大学院 理工学研究科

検索

事務取扱時間

平日 ▶ 08:30~16:30 土曜日 ▶ 08:30~12:00 電話 ▶ 044-934-7561 Mail ▶ sst@mic.s.meiji.ac.jp

※ 休業期間やイベント等により事務取扱時間は変更となる場合があります。

建築・都市学専攻 国際建築都市デザイン系

都市や建築分野における教育・研究・実務の領域では、国を超えた共通の課題や地域に根ざした固有の問題などを解決するために、国際的視野に立った高度専門家の育成が緊急の課題となっています。

一方、近年、グローバルな経済変動の中で国内建築業界は長期停滞傾向にさらされ、今後ますます海外進出を視野に入れた建築技術者の養成が求められています。

国際建築都市デザイン系では、国際的に通用するプランナーやデザイナーを育成しています。

カリキュラム一覧

専修科目	担当教員
Architecture and Urban Design Studies	佐々木 宏幸
Architecture and Urban Design Studies	庄 ゆた夏
Architecture and Urban Design Studies	田中 友章
Architecture and Urban Design Studies	ヴァンアカー、ミッシェルA.
Architecture and Urban Design Studies	田村 順子

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

2023年度 修士論文テーマ

- ▶ RESEARCH ON CHANGES OF SHOPFRONT AREAS IN SPACE AND TIME
—Case Studies of Three Main "Shotengai" in Tokyo—
- ▶ Study on Neighborhood Unit for Aging Society
—Using a comparative study of neighborhood unit theories—
- ▶ Study of the Situation of Daily Bathing in Contemporary Living
- ▶ A study on the relationship between objects and pedestrians in waterfront spaces
—The design triggers for future development around Takahama canal area—
- ▶ SOCIAL INTERACTION AMONG OLDER ADULTS IN PUBLIC SPACES IN TOKYO
—Toward Building Age-Friendly Urban Environments—
- ▶ Research of functions and roles between summit and base area
—15 cases of ski resort with gondola operating in summer season—
- ▶ Comparative Study of Taishido and Kampung in Jakarta
—Exploring Bottom-Up Strategies in Machizukuri—
- ▶ A Study on the Relationship between Urban Farmlands and Spongy Urban Areas in Nerima Ward
- ▶ RESEARCH ON THE SPATIAL CHARACTERISTICS OF BACK ALLEYS BY LIFE TERRITORIALIZATION —Case studies in high-density wooden housing area in Yanaka—
- ▶ The Possibilities of Legal Street Arts for Generating Urban Vitality
- ▶ The Potential Use of the Space Under Elevated Railroads during a Disaster
—A Design for both Quality-of-Life and Flood Evacuation—
- ▶ A study to increase livability of a neighborhood in Shenzhen with the concept of the 15 minutes city —Through a Comparative Case Study of Tokyo & Shenzhen
- ▶ A Study of Spatial Configuration of "OKUSEI" in Architectural Space
—Through Case Study of Hillside Terrace—
- ▶ EFFECTIVE INITIATIVES FOR OVERTOURISM:
CREATING MUTUAL UNDERSTANDING BETWEEN LOCAL RESIDENTS AND TOURISTS
—Effects of Nohaku in Chiba Prefecture—
- ▶ Influence of Spatial Elements on Human Behavior in Public Space
—Aiming at Activation of Front Station Space Usage—
- ▶ Study of Composition of Street Space through The 3D Model of Visible Area
—Three Cases of Commercial Areas: Ura-Harajuku, Ura-Aoyama, and Ura-Yokohama—
- ▶ BALLPARK URBANISM
—Study on the relationship between ballparks and the surrounding urban environments—
- ▶ Harmony And Diversity: Exploring The Unique Character of Asian Public Spaces
- ▶ Organization of Pedestrian Deck on Station Square Based on Space Syntax Theory
- ▶ The Implications of the Covid-19 Pandemic on Public Housing Models
—Comparative case studies of Public Housing in Tokyo and Singapore—
- ▶ SEMI-OPEN SPACES THAT PROMOTE PUBLIC LIFE IN TOKYO
—TOWARD CHILD-RAISING-FRIENDLY NEIGHBORHOODS—
- ▶ Children's Independent Mobility Focusing on Safe Urban Environments
—A comparison of Tokyo, New York, and Cairo—
- ▶ A Study On Revitalizing Shuttered Shopping Streets
By Enhancing Quality Of Life And Vitality
- ▶ Redefinition and Classification of Third Place Cafés in Japan
—Comparison with Traditional Third Places Abroad and Contemporary Third Places in Japan—
- ▶ Stationary Street Vendors in Chennai, India: Their Potentials and Challenges
- ▶ A STUDY OF SEMI-PRIVATE URBAN SPACES IN OLD COMMERCIAL COMBINED WITH RESIDENTIAL DISTRICT

修了生からのメッセージ

博士前期課程

Master's Program



谷崎 音花

TANIZAKI Otoka

建築・都市学専攻
国際建築都市デザイン系
(I-AUD)
2023年3月修了

都市↔建築を往復する

I-AUD(国際建築都市デザイン系)は、都市と建築の切っても切れない関係性を国際的・実践的に理解できる唯一の場所です。そんな私が思うI-AUDならではの素敵なことは2つあります。1つは、多国籍な友人らと常に文化の違いを刺激し合い、その環境の中で自分の取り柄となる武器は何なのかを見つけられること。そして、2つ目は、建築と都市を総合的にデザインする力を鍛えられること。マクロな目線で都市を考察し、将来のVISIONの物語を描く。ミクロな目線で建築を構築し、新規性を創発させる。私の中でI-AUDというアカデミックでしか得られない経験は、これからの建築家人生の根底になっていくと思っています。

Q 師事していた教員は？

A 田村 順子 特任准教授

田村先生は、建築の枠を超えた理論を展開し、都市と建築の関係性を尊重する大変熱量のある恩師です。先生から、VISIONをナラティブに表現する意味や、コンテキストから創発させるデザインの大切さを学びました。先生の知識を100%吸収し、新たなデザインを生む後輩が来ることを期待しています。

教員情報 P.185

建築・都市学専攻 総合芸術系

総合芸術系では、芸術文化の歴史と現在に対する洞察と、自然と社会の環境への適切な配慮を、創造的な研究へとつなげていくことのできる人材育成を目的とします。

修了後の進路としては、高等教育機関教員、アーティスト、キュレーター、批評家、ジャーナリスト、自治体・企業等における文化支援部門の専門職などが挙げられます。

2023年度 修士論文テーマ

- ▶被災地の表象と予測不可能性
—志賀理江子の写真作品「螺旋海岸」と「ブラインドデート」について—
- ▶石の神秘性とは 岡本太郎の「生きがい」を手掛かりに—

カリキュラム一覧

主要科目	特修科目	担当教員
総合芸術研究	現代美術特論 写真史特論	倉石 信乃
総合芸術研究	映画と都市 文学と都市	清岡 智比古
総合芸術研究	映画史特論 批評特論 総合芸術特論	管 啓次郎
総合芸術研究	環境と人文学 環境とデザイン	鞍田 崇
総合芸術研究	ワークショップ・デザイン特論 空間表象特論	山本 洋平

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※一部の科目について、生田キャンパスで開講する場合があります。

修了生からのメッセージ

博士前期課程

Master's Program



谷山 亮太

TANIYAMA Ryota

建築・都市学専攻
総合芸術系
2023年3月修了

“興味”を拡張してくれる場所と人

総合芸術系では、その名のとおり、映画・小説・絵画・写真……など、幅広い形態の芸術について領域横断的に学んでいくことができます。様々な分野に詳しい人々が集まっていて、対象へのアプローチの仕方は人それぞれ。自分の興味ある分野や作品について深く研究していけるのももちろん、自ら作品を作って表現することもできます。学びと実践の両方が歓迎される場所が、総合芸術系なのです。

またここでは、大学院における学びについて一種の型を勉強しながら、時にそうした型に縛られない先生方や研究生と意見を交換し、自分の興味関心はあまりこんでいた狭い型を破っていくことができます。自分も日々、予想した以上に興味が拡張されていくという体験を味わい、楽しみました。

Q 師事していた教員は？

A 清岡 智比古 教授

清岡研究室では、アメリカやフランスを中心とする海外映画について学んでいます。鑑賞と議論を重ね、作品内の表現と作品外の歴史や社会情勢などとの密接な関わりを見ることで、映画を取り巻く軸が拡大していきます。論点を固定せず、文学などからも言及がされるので、他分野に対する学習意欲も刺激されます。

教員情報 P.185

建築・都市学専攻 教員一覧

国際建築都市デザイン系

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

佐々木 宏幸
SASAKI Hiroyuki博士
(芸術工学)
教授研究
分野 アーバンデザイン／都市・地域計画

【最終学歴】カリフォルニア大学バークレー校大学院 【担当授業科目】Architecture and Urban Design Studies 【研究テーマ】戦略的アーバンデザインの実践手法／フォーム・ベースド・コード／ニューアーバニズム／公共空間のデザインと活用 【主な著書・論文】飯田市中心市街地活性化に向けた裏界線の活用に関する研究／「歩行者利用可能な路上駐車帯「フレキシブル・ゾーン」を有する街路に関する研究」／路上駐車帯の屋外飲食空間としての利用に関する研究

庄 ゆた夏
SHO Yutaka博士(環境学)
教授研究
分野 建築計画、意匠、
デザイン・ジャスティス

【最終学歴】ハーバード大学デザイン大学院 【担当授業科目】Architecture and Urban Design Studies 【研究テーマ】グローバル開発業界における建築の役割 【主な著書・論文】"Five Aesthetics of the Global Development Industry: Building Low-Cost Housing in Rwanda" The Right to Housing, *The Plan Journal*, Vol.7, No. 2, 2023. / 建築が重なるインターセクショナルリティー, *建築ジャーナル*, No.1351, 2024年 / "Regenerative Material-Human Ecologies: Investigating Mycelium for Living and Decentralized Architectures in Rwanda" in *Design for Rethinking Resources*, Springer Nature, 2023.

田中 友章
TANAKA Tomoaki博士(建築学)
教授研究
分野 建築設計／建築計画／敷地計画

【最終学歴】早稲田大学大学院 【担当授業科目】Architecture and Urban Design Studies 【研究テーマ】場所に応答する敷地計画に関する研究／複数数地区画の包括的・協調的計画に関する研究／大学における新たな学びの場に関する研究 【主な著書・論文】「密集市街地における連担建築物設計制度の活用に関する研究」(日本建築学会計画系論文集)／「都市建築のかたち」(共著・日本建築学会・丸善)／「住むための建築計画」(共著・彰国社)

ヴァンアカー, ミッシェル A.
VAN ACKERE Michel A.修士(建築)
特任教授研究
分野 Contemporary Architecture and Urban Design
Practice / Japanese Architecture and Urbanism

【最終学歴】ハーバード大学院 【担当授業科目】Architecture and Urban Design Studies 【研究テーマ】Contemporary Architecture and Urban Design Practice / Japanese Architecture and Urbanism 【主な著書・論文】*Making the Museum Reinhard Ernst*; Aedes publications, Berlin. *Made in Japan Can be Made Anywhere*; Harvard Design Magazine #33, Harvard GSD publications. *Fumihiko Maki and Modernism's Public Potential*, Kenchiku Shiso #5, Gakugei publications. *The Hanshin Earthquake and the End of Nostalgia*, Kyoto Journal #30, Shikosha Publishing Co Ltd. *Post-War Cross-Pollination in the Suburbs, Post-War Housing in Japan*, Shokokusha Publications.

田村 順子
TAMURA Junko博士(工学)
特任准教授研究
分野 建築・都市デザイン論、
コミュニティ開発

【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】Architecture and Urban Design Studies 【研究テーマ】低所得者居住地域における住環境改善の実践的アプローチ／持続的地域開発のコミュニティ支援 【主な著書・論文】"Spatial Patterns in Incremental Process of Low-Income Population—The Case of Lusaka Sites and Services Project; (日本建築学会計画系論文集)／"D Catalogue: Planning and Design, Center for Sustainable Urban Regeneration; (編者、共著、東京大学都市持続再生研究センター)

総合芸術系

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

清岡 智比古
KIYOOKA Tomohiko

教授

研究
分野 映画論／詩論／都市論

【最終学歴】上智大学大学院 【担当授業科目】映画と都市／文学と都市 【研究テーマ】都市論と映画論を組み合わせ、現代のディアスポラの様相を探る／日本近現代詩論 【主な著書・論文】『東京詩』／『エキゾチック・パリア内』／『パリア移民映画』／『混成世界のポルトラーノ』(共著)

倉石 信乃
KURASHI Shino

教授

研究
分野 近現代美術史・写真史・美術館学

【最終学歴】多摩美術大学 【担当授業科目】総合芸術研究／現代美術特論／写真史特論 【研究テーマ】複製技術時代以降の視覚芸術の可能性を、具体的な作品・資料に拠って考察する 【主な著書・論文】『スナップショット—写真の輝き』(大修館書店・2010年)／『反写真論』(オシリス発行・河出書房新社・1999年)／『失楽園：風景表現の近代1870-1945』(共著・大修館書店・2004年)

菅 啓次郎
SUGA Keijiro

教授

研究
分野 比較詩学／批評理論

【最終学歴】ワシントン大学(シアトル) 博士論文提出資格取得 【担当授業科目】総合芸術研究／映像文化特論 【研究テーマ】現代地球社会における文化創造の分析 【主な著書・論文】『コロブスの犬』／『狼が連れだって走る月』／『斜線の旅』(読売文学賞)／『時制論』『数とタガ』(詩集)／『ストレンジオグラフィ』

鞍田 崇
KURATA Takashi博士
(人間環境学)
准教授研究
分野 哲学／デザイン／環境人文学

【最終学歴】京都大学大学院 【担当授業科目】環境と人文学／環境とデザイン 【研究テーマ】地球規模の環境・社会変化を克服する人文的アプローチの確立 【主な著書・論文】『フードスケープ』(共著・アノニマスタジオ・2016年)／『民藝のインテリマシー—「いとおしさ」をデザインする』(単著・明治大学出版会・2015年)／『生活工芸の時代』(共著・新潮社・2014年)／『人間科学としての地球環境学』(共著・京都通信社・2013年)／『民藝のレッスン—つたなさの技法』(編者・フィルムアート社・2012年)

山本 洋平
YAMAMOTO Yohei博士(文学)
准教授研究
分野 アメリカ文化・文学研究、
環境文学研究

【最終学歴】立教大学大学院 【担当授業科目】空間表象特論、ワークショップ・デザイン特論 【研究テーマ】環境文学論(場所／空間／風景／都市)、学術ワークショップの実践 【主な著書・論文】"Unsettling the Wilderness: Thoreau's Post-Sublime Vision in The Maine Woods"(2021年)／『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』(共編著・ミネルヴァ書房、2021年)／『環境人文学！文化の中の自然』／『環境人文学II 他者としての自然』(共編著・勉誠出版・2017年)